

テーマ

■前回までの流れと今回の内容

8月から、「ヘブル人への手紙」を学んでいます。中川先生のメッセージ・シリーズ「ヘブル人への手紙」とフルクテンバウム博士のバイブル・コンメンタリー「ユダヤ人信者に宛てた書簡：ヘブル人への手紙、ヤコブの手紙、ペテロの手紙第一・第二、ユダの手紙」に基づきます。

8月には2回にわたり「イントロダクション」として、ヘブル人への手紙の全体像を学びました。手紙の著者は誰か、受取人たちは誰か、彼らはどのような状況の中にいたのか、などを見ました。

本日は、1章1節から3節までを扱います。著者は、あいさつ文なしで、冒頭から本題に入り、中心テーマを示します。緊迫した時代の雰囲気を感じられます。

■テーマ (1:1~3) 語順をできるかぎり原文に近いように訳すと：

(1節) 多くの部分に分け、また、いろいろな方法で、むかし、神は語られた、父祖たちに、預言者たちを通して

(2節 a) この終わりの時【終わりの日々・これらの】には、語られた、私たちに、ひとりの子において、

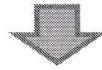
(2節 b) 神は、そのお方を、万物の相続者とし、
そのお方によって、世界【時代時代】を造られた、

(3節) そのお方は、神の栄光の輝きであり、
また、神の本質の完全な現れであり、
万物を保っておられる、その力あるみことばによって、
また、そのお方はご自身により、成し遂げた、きよめを 私たちの罪の、
そして、着かれた【座られた】、右の座に すぐれて高い所の大能者の。

1. ヘブル人への手紙の著者は、1:1~3で、まずテーマを紹介する。
 - (1) この手紙の基本的論法は、比較である。1:1~10:18で、神の子であるイエスを、ユダヤ教の三本柱である「モーセ」・「天使たち」・「レビ族アロンの家系の祭司たち」と対比して、御子の優位性を論じる。
 - (2) テーマの紹介においても、比較の論法を用いる。古い啓示と新しい啓示との比較から入る。モーセはじめ預言者たちと天使たちは古い啓示の伝達者、イエスは新しい啓示の伝達者である。
 - (3) イエスが伝達した新しい啓示が、最終的かつ完全なものとして信頼できるのは、イエスが子なる神であり、父なる神と同等であられること、そしてイエスのわざとによる。そのことを、7つ列挙する。

2. 1章1節~2節 a 古い啓示と新しい啓示との比較

	古い啓示	新しい啓示
方法	多くの部分に分け ^ギ ポルメロース (漸進的・部分的) いろいろな方法で ^ギ ポルトローポス (被造世界、族長たち、預言者たち) (幻、律法、型、預言)	
時期	むかし	終わりの日々・これらの=今
源	神	
伝達者	預言者たち	ひとりの子 (子なる神)



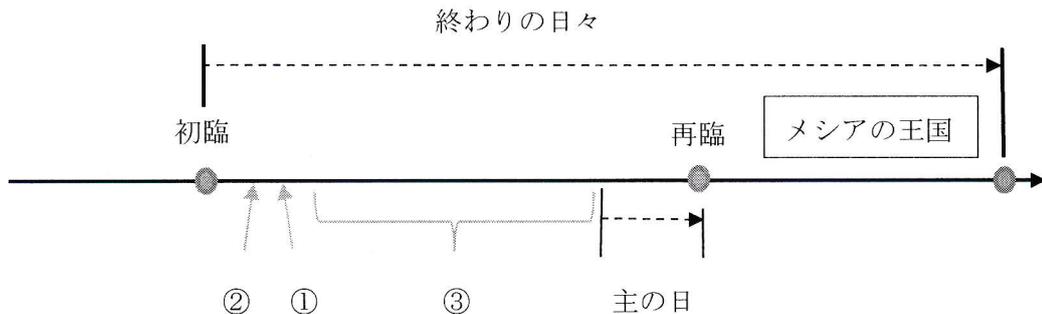
特徴	漸進的・部分的な啓示	最終的・完全な啓示

新しい啓示においては、「方法」については言及なく、「終わり エスカトス」というギリシア語で始まる。このことばには「終了」と「ゴール」の2つの意味がある。新しい啓示は、①神による啓示の最終段階であること→最終的、②古い啓示のゴールであり、これで啓示が完成すること→完全 を示している。

3. 「終わりの日々 (the last days)」

- (1) 旧約聖書の預言者たちがこの用語を使うときは、メシア到来後の時代を指す。
 - ① イザ 2:2、ミカ 4:1・・・いずれもメシアの王国についての預言
 - (2) ユダヤ教のラビ用語であり、「メシアの時代」を意味する。
 - (3) 旧約聖書の啓示では、メシアの王国まで。それが千年間であるとか、その後に最後の審判があり、新天新地の創造、永遠の秩序が続くという啓示は、新約聖書の黙示録によってはじめて明らかとなる。
 - (4) 旧約聖書の啓示では、時代が進むと最終的にはメシアが来臨してメシアの時代になる、そこまでである。よって、メシアの時代は、「終わりの日々」である。
 - (5) 新約聖書で使用している例
 - ① ヘブ 1:2
 - 「この終わりの時」・・・「終わりの時」、直訳すると「終わりの日々」は、メシア到来後の時代を指す。この用語使用は旧約聖書の預言者たちと同じ。
 - ヘブル人への手紙が書かれた時点は、メシア初臨が起きた後なので、その時代に入っている。
 - 「この」: 正確には「日々」が複数形なので「これらの」→「今はすでにメシア到来後の時代」という意味

- ② ヤコ 5:3 「あなたがたは、終わりの日【日々】に財宝を蓄えました」
 ➤ 金持ちたち=祭司長たちやパリサイ人たちへの警告
- ③ IIペテ 3:3
 ➤ 3節 終わりの日【日々】には、メシアの来臨を否定し、あざける者たちが現れる。
 ➤ 7節 「今の天と地は、火に焼かれる」、「不敬虔な者どものさばきと滅びの日」=大患難期
 ➤ 10節 「主の日」=大患難期 (イザ 13:9)
 ➤ 13節 「正義の住む新しい天と新しい地」=メシアの王国 (イザ 65:17)



4. 2節 b~3節 イエスが伝達した新しい啓示が、最終的かつ完全なものとして信頼できるのは、イエスが子なる神であり、父なる神と同等であられること、そしてその驚くべきわざによる。そのことを、7つ列挙する。

- (1) 神は、子を万物の相続者とされた
- ① 相続により、子は父の権威を行使する。
 - ② 「万物」の相続者とは、すべての被造物を支配する（天使をも支配する）、全宇宙の支配権を握ること、これは神の地位である。
- (2) 神は、子によって時代時代を造られた
- ① 時と時代は、神が創造し、神が支配しておられる。
 - ② 神は、時代時代を設定し、その中で神の計画とプログラムが進展していくことを見せてくださる。時と時代は神の啓示の手段である。
 - ③ 子は、父なる神の定めに沿って、時代時代を通して全宇宙を動かしておられるお方である。
- (3) 子は、神の栄光の輝きである
- ① 神の栄光が輝きだして、人の目に見えるようになったもの、それは旧約聖書に記された「神の栄光」、シャカイナ・グローリーである。
 - ② 子は、神が人となられた、神-人である。その肉体の中には、シャカイナ・グローリーが秘められていた。それが輝きだした出来事は、マタイ 16:28~17:8、IIペテ 1:16~18、ヨハネ 1:9~14。
- (4) 子は、神の本質の現れである
- ① 現れ **ギ**キャラクター：英語のキャラクターの語源。「表現されたイメージ」と

いう意味。

- カラクテールとは、硬貨を造る金型に模様を彫る工具
- 金・銀・銅などの金属材料を、金型に押し付けると、金属材料の表面には金型にあった模様がそのまま表され、硬貨となる。

② 子は、父なる神がどういうお方か、身をもって示す。人は、子を見て、神を理解する。神が愛なるお方であること、愛とは何かを、知る。

(5) 子は、その力あることばによって、万物を保っておられる

- ① 保つ^ギフェローは、単に保持するとか、維持するという意味ではなく、「ゴールに向けて運ぶ」という意味である。
- ② すべての被造物は、ゴールを持っている。神の計画の中にあつて特別な目的を持っていて、それに到達するよう、子は万物を導き、すべてをコントロールしておられる。
- ③ 子は、「ことば^ギレーマ=語られたことば、発音されたことば」をもって、万物を動かしておられる。

(6) 子は、ご自身により、私たちの罪のきよめを成し遂げた

- ① 子は、人の贖い主である。
- ② きよめを行うのは、祭司の職務。イエスが祭司職にあることは、5章から7章にかけて詳しく説明される。
- ③ このきよめには、4つのポイントがある。
 - ご自身により=誰も他には、このきよめを提供できない
 - きよめ=血の犠牲を必要とする。子は死ぬことによって提供した
 - 成し遂げた=1回限りで完成されたわざである。人のきよめのために、子がさらに何かを提供することも、人が何かをすることも、全く必要ない。
 - 罪のきよめ=単なる外面的なきよめでない。罪(複数形)のきよめである。すべての罪、信者になってからの将来の罪もすべて、きよめられた。

(7) 子は、父なる神の右の座にすわった

- ① すわった=子のわざは完成した(10:12)
- ② 父なる神の右の座に=子は、父なる神と等しい地位にあつて、絶対的な権威を持っている
 - I ペテ 3:22
- ③ 子の現在のわざは、父なる神の右の座にあつて、私たちのためにとりなすことである(ロマ 8:34)

5. 今日の結論

- (1) 子は、預言者たちよりも優る啓示の伝達者である。
- (2) 子は、最終的で完全な啓示の伝達者である。
- (3) 子は、すべての過去の啓示、神がさまざまな部分に分け、さまざまな方法で語られた啓示を証明し、成就するお方である。